vol.524

mj "高品質力、信頼性、情報性マック"
THE MAC JOURNAL
三菱商事アグリサービス株式会社

◆ 2018年6月27日発行ラインナップ
・第64回トモエ肥連通常総会開催
・女性農業経営者
～梨・朝倉梨栗園（福井県）

第６４回トモエ肥連通常総会開催

昨年に引き続き　「従天命尽人事」

６月14日より２日間に亘り、東京ガーデンパレス（東京・御茶ノ水）に於いて、第64回トモエ肥料販売協同組合連合会（以下トモエ肥連）通常総会並びに全国拡販推進会議が行われた。総会は武蔵副理事長（武蔵商事株式会社代表取締役社長）の開会宣言、議事進行は五十嵐理事長（株式会社ネイグル新潟代表取締役社長）により滞りなく進められた。来年はトモエ化成生誕１００周年を迎えるが、今期のスローガンは昨年に引き続き「従天命尽人事」とされた。変動する商売環境を天命と捉え、農家の為となる事を念頭に置いて商品提供、技術力研鑽を進める、農業場面では農場の地力・水利・天候など環境を天命と捉え、対応した肥料・生産技術を駆使して高品質で多収穫を目指すとした、トモエ化成創業者の鈴木千代吉先生のお言葉でもある。本年は役員改選の年であったが、理事長含め全ての役員が再任、トモエ肥連としてメーカー、元売商社と三位一体の結びつきを継続して強固として新たな農政新時代に向けて邁進していくよう努めるとした。活動方針は以下の通り。

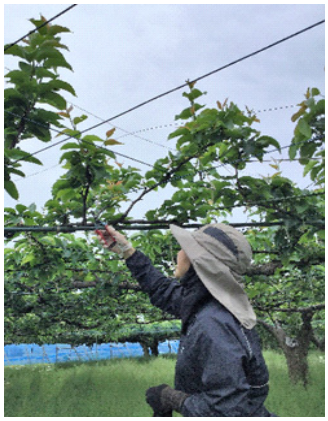
①　トモエ・ときわ製品の拡販を柱とする取組
②　現地研修会を始めとした技術研修を通じ、技術力の底上げを図る
③　各地での現地研修会に全国よりの参加を促し、情報共有化を一段と高める
④　地域に則した新規商材の開発研究・販売の協力に努める

来賓の祝辞及び講演では農林水産省生産局技術普及課生産資材対策室の今野室長より「農林水産政策及び肥料行政の展開方向」について説明がなされた。また、エムシー・ファーティコム株式会社の石黒新社長からは昨期の業績報告に加え、今後益々国内農業が縮小していくなかで当社の特徴を生かした機能品拡販に資する施策については設備や人材を含め資源の集中投資を行っていくこと、汎用品についても他社に負けない競争力強化に向けて構築を図ることが説明された。当社三宅社長からは減反廃止元年となった今年の農政事情と米の情勢や肥料業界情勢等が報告された。また、エムシー・ファーティコム株式会社からは、飯村東京支店長による実績報告に続き、研修面においては技術普及グループより水稲の省力栽培に対応すべくトモエ化成の機能を生かした被覆尿素入り元肥一発肥料の試験報告、新生オルガニンの肥効と試験結果報告、各地域より畑作中心とした優良事例の報告、MCFCネットの活用についての説明がされた。出席者からはトモエ化成を機能商材として有利販売につながるデータやセールストークについて質問がなされ、活発な意見が交わされた。トモエ化成を取り扱う方ならば誰もが実体験している、一般化成肥料とは異なる淡い緑葉色を示す言葉として「トモエ色」という独特な表現方法が使われたり、トモエ化成の効果を再認識する内容の濃い研修であった。

来年の2019年は元号もかわり、トモエ肥料も生誕100年を迎える。日本はこれから人口減少や農業就労者の高齢化、農家人口の大幅減少と農業は過渡期を迎えているが、その中で時代に合わせた、農家ニーズにマッチする肥料の販売が益々必要となってくる。トモエ肥料の基本ベースは変わらないが100年の時代の流れに合わせて進化を続けており、またトモエ肥料を取り扱う会員は他に類を見ない結束力の強さもある。これからのトモエ肥連の益々の発展を祈念したい。

女性農業経営者 ～梨・朝倉梨栗園（福井県あわら市）～

（株）フクムラ様のご紹介により、福井県あわら市で朝倉梨栗園を営む女性農業経営者 朝倉氏に話を伺った。朝倉氏は梨40aの他、栗、葡萄等も栽培している。日本で梨が食べられ始めたのは弥生時代頃とされ、特に栽培技術が発達したのは江戸時代。既に100品種以上もあったと言われている。昔の人はその名前が「無し」という言葉とも通じることから、あえて反対の意味である「有り」を用い「有の実（ありのみ）」と呼んでいたそうだ。朝倉氏はその呼び名にあやかり、「愛梨の実（ありのみ）」という商品名で販売している。梨栽培に関しては、「除草剤不使用」、「オール有機肥料」に徹底して拘っている。梨は果樹の中でも主要病害虫が多い作物。基本的に無農薬栽培は不可能とされており、減農薬に努めている。それらが報われた出来事として、２年前に果物アレルギーを持つお客さんより「朝倉さんの梨なら食べられる」とのお礼の連絡があり、口コミで広まりつつある。



これだけ熱意をもって梨栽培に取り組む朝倉氏は、意外にも親が亡くなった後から一念発起で梨栽培を始められたそうだ。親の生前は手伝い程度。最初の年は勉強もせず安易に始めてしまい、何も分からないまま収穫を迎えた。収量・味共に最悪の出来となり、毎年買ってくれていたお客さんからは「お母さんの梨の方が美味しかったね」と手厳しい意見もあった。その時初めて「これまで美味しいのが当たり前と思って食べていた梨は、母親が手塩にかけて作り上げた結晶」だった事に初めて気づいたという。このまま勉強しなければ大変な事になってしまうとの危機感が芽生え、翌年からは地元の普及所や先輩農家に数年かけて基礎を勉強した。現在は埼玉の梨の篤農家が開く塾（研修）に年３回程度参加し最新の栽培技術を勉強している。朝倉氏は常に学ぶ事のある毎日が楽しく「農業が趣味」と言い切る。近年では地元に若い就農者も増えており、朝倉氏の農園にアドバイスを求めに来ている。勉強熱心で優秀だが、彼らには何よりも先ず大きな失敗をし、自らの力で問題解決する力、忍耐力など養って貰いたいという。

朝倉氏は女性農業経営者だからこその長所として「人の話を素直に聞ける」「消費者目線で美味しいものを作りたいと思う意識が強い」を挙げる。農家の大半は代々受け継いだ技術と経験、自信から、新しい技術を勉強しようとしない人が多い。但し女性の場合、これまでの経験は関係なく、良い事は先入観無くすぐ真似してみたいと思える意識の人が多いという。梨は永年作物。果樹の中でも特に年中管理を必要とする作物で、剪定（切る場所、切る方向等）、人工受粉、摘果など全て作業は数年後の結果に結びついてくるとの事。朝倉氏は３年後を見据え、剪定など作業の一つ一つを丁寧に行っている。取材をした５月下旬は、果実の生長と樹勢の維持を図るため幼果を間引きする摘果時期に当たる。今年は４月上旬に霰（あられ）が降り、本来果実として残したい３～４番花の幼果となる蕾（つぼみ）がやられてしまった。どの幼果を残すべきか非常に悩ましい状況との事。朝倉氏はそんな中でも「最善を尽くすのみ」と逆境を楽しむように答えていたのが印象的だった。（名古屋支店）

名古屋支店閉鎖に関するご案内

来る６月30日を以って名古屋支店を閉鎖し、業務を大阪支店へ統合することとなりました。名古屋支店管轄のお取引先様に於かれましては、長年に亘りご贔屓を賜りまして有難うございました。業務は大阪支店へ移管致しますので、今後も引き続きご愛顧賜ります様、宜しくお願い申し上げます。

【大阪支店】 大阪府大阪市淀川区西中島４丁目３番８号（新大阪阪神ビル９F）
TEL： 06-6390-6845 FAX： 06-6390-6849
支店長：奥野繁夫 支店長代行：岡本幸男（旧名古屋支店地区担当） 部長代理：川崎正実
課長代理：清野徹（旧名古屋支店地区担当） 受渡担当：平井裕子、西美幸

まだ６月だというのに猛暑日になり、暑さに慣れませんね。W杯で寝不足の方も多いと思いますが、体調管理にはご注意下さい。今号は13・26日の合併号とさせて頂きました。ご了承ください。

編集事務局：南部、助川
電話：03-5275-5511/E-mail： macjournal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp